

公共事業の説明責任について考える

(東京電力の広報に携わってきた経験から)

2002/02/21

東京電力株式会社

榎 本 晃 章

1 変わってきている社会（説明や情報の受け手の変質）

- (1) 変わってきた"ものの決め方"、"決め方"
- (2) 動きの中心の一つは、"女性"
- (3) 増えてきている"参加する"、"行動する"、"自分で考える"、"判断する"、"発言する"人たち（特に女性）
- (4) 顕在化し、拡大してきている格差
：ジェネレーション、男女、都市部と地方
- (5) 豊かさの中で、生活様式、価値観、感性などの多様化拡大

2 社会的合意形成に欠かせない説明と情報提供

- (1) プロジェクト推進に必要な "推進の論理"
- (2) 提示される異論・異説との世論支持獲得合戦
- (3) 決め手は、"中間層"の支持（無言支持＝反対はしない）。
そのために欠かせない"分かりやすさ"、"共感を得ること"。
- (4) 必ずしも論理的には、進まない地域社会合意
- (5) プロジェクト推進に伴う問題や影響についての情報の発信と一般論

3 基本は、“信頼関係”

- (1) 地域住民との“信頼関係”が基本
- (2) 信頼の基礎は、情報の公開と透明性
- (3) 幾つかのキーワード
「ものには、"裏表"、"光と影"、"作用と反作用"があるという当たり前のこと」
「皆さんの問題」だと思ってもらう

以 上